

一緒にして汗を流し、笑い合ったのが最後となった。

福岡地区は16戸のうち9戸が被災し、現在、5世帯が仮設住宅で暮らしている。県営住宅などに移った世帯もいて、半分の戸数になってしまった。10月から本格的な山の復旧作業が始まると説明があったが2年の歳月がかかるという。しかし、雨が降るたび今なお泥水が流れ込み苦慮している。その間の応急処置を願う。そしてどうにかまた、

皆に戻って来てもらいたい。安心して暮らせる地区を取り戻したい。



### 「土砂崩落で4mの山津波が発生。放置されている人工林の伐採を」

古城5の1区 家入秀生区長

古城地区一帯は見てのとおりに土砂崩落で甚大な被害を受けた。うちの地区では白石酒店の上や古閑医院の上などで土砂崩れが起き、残念ながらお一人が亡くなっている。ある方は、全身土砂に埋もれたがどうか口だけ出して長時間耐えるなど、土砂に埋もれ奇跡



ここまで泥水が来たと語る家入区長。

的に助かった世帯が数世帯ある。私の家は古閑医院に近いが医院前の土砂崩落に

より発生した大きな津波を見た。浸水の水とぶつかったため、4mほどの山津波になり集落を襲った。

ライスセンター横のガラスハウスを打ち越して来たのだ。たまたま民家が少なく大きな被害に至らなかったが、一の宮高齢者センターもその影響を受けた。

今回の災害で地区42戸のうち、土砂で8戸がのまれ、仮設住宅には9世帯が入られている。この地区には築200年を超える家が数軒あり今回被災したがこれまでの200年は壊れていない。これだけの豪雨がそれまでなかったのか？私は、昔は雑木林でこんな人工林はなかったからだと思う。植えっぱなしの人工林が大きくなり密集。日が入

古城5の1区の災害現場。



らず根がはらなくなる。雨で流れ出やすくなる。今回こんなに大木が流れていないならこのような大きな被害にはならなかった。橋に流木がつまり田んぼなどへ氾濫。植えっぱなしの人工林に一番問題があると思う。

また、今回、豪雨で防災無線が何を言っているかわからず、皆自己判断で動いている。今後はサイレンを鳴らしてほしい。そして間隔で危険度が判別できるようにしてほしい。間隔を長くしたサイレン、短くしたサイレンなど3段階くらいをつくって、市民に絶対に届くことを第一に取り組んでほしい。サイレンの間隔で避難指示、勧告、準備など判断しやすく。

今度の災害で古城地区は40世帯以上全損しているが、40世帯も離村するならば成り立たない。田んぼは農振がかかっていて自分の土地でありながら家を建てられない。しかし住み慣れた地区内に家を建てたいというのが被災者心情。よりよい対策を願う。

## 「古城・坂梨を襲った土砂災害 村の再生願う」

古城1区 坂梨照幸区長

近所の方から「早く逃げた方がいい」と電話があった。その慌てた電話に驚き、年離れた親がいるので急いで外へ出たら、前後に濁流が来ていて八方ふさがり、すでに逃げられない状態だっ

古城一帯の山崩れを見つめながら、危険と隣り合わせとなった皆の生活を心配する坂梨区長。

た。土砂崩れが起きないよう祈ったが、突然裏山の竹がバリバリバリとすごい音を立てた。あっ土砂が来た、もう終わりだ」と思って妻と3人で身を寄せた。

しかし、ものすごい音はするものの我が家には直撃しなかった。翌日裏の現場を見たら、大きな流木2本が真横にひっかり、土砂を防いでいた。奇跡としか言えない。この木がなかったら本当は命を落としていただろう。父親もその恐ろしさにショックを受けている。我が家は地区の上の方なので日頃から気を付けていたつもりが逃げ遅れた。これほどまでに早く水が来るとは予想外だった。

古城1区は山腹崩壊が至る所で発生し、私のような体験をした方は地区内に何人もおられる。皆さん命の危機に直面しており、ショックは消えない。



2本横並びする形で、区長宅への土砂を奇跡的に止めた杉。

状況だった。農業機械も車も土砂に埋まりひっくり返り、地区の人たちの悲しみは測れない。仕事の道具も生活も奪われてしまった。

しかし、災害後、道も通れず、水も出ない日々が続いたが、区民の皆さんの協力により道路が通れるようになり、後片付けも進みボランティアの方々がたくさん来られるようになったのも励みになった。泥出しに皆さん感謝しておられる。

古城1区は50戸あるが9割の世帯が被災した。床上被害が多かったが、土砂や流木が家に打ち込んでいたので、今もなおその片付けには苦勞をされている。災害直後、我が地区の光景は一言でいえば「信じられない」



より市民の方々の今後を見据えた対策に邁進するため、阿蘇市役所では9月3日から災害本部名を「災害復興対策本部」に変え、取り組んでいます。

今回の豪雨での山腹崩壊箇所の件数は、9月24日現在、334件。

身を持って被災者へ協力

## 災害ボランティアの方々の思い

『阿蘇の力になりたい！』嬉しかった同級生  
や部活動の仲間の言葉



熊本高校2年  
(一の宮中学校出身)  
山内聡太

私はボランティアとして計7日間活動しました。

動機は、全国からたくさんの方々が阿蘇のためにボランティアに参加してくださっている中で、地元の自分が何もしないことはおかしいと思ったからです。また、一の宮中学校出身の同級生たちも同じように思っていたようで、お盆に休みを利用してボランティアに行きませんか？とある一人が呼びかけた

結果、10人近くが応じ、みんなで活動しました。

また、高校の部活に戻り、阿蘇の事を部員に話すと、自分たちから「力になりたい！」と言い出し、サッカー部員30人が、水前寺駅から往復2160円の汽车租赁を負担し、阿蘇まで来てくれました。家が遠くて朝5時に家を出た部員もいました。阿蘇のために活動してくれたみんなに感謝しています。

被災された方のご苦勞を察し胸が痛みます。  
『困った時はお互い様』です。



福岡県相馬市  
小幡広宣

昨年の東日本震災では、福岡県相馬市にて私も被災し、熊本県からも多くの方々にお越し頂き、励まされ、僅かばかりでも恩返しができればと、阿蘇での災害現場にお邪魔させてもらいました。

現場に入ると、津波の被害とはまた違った悲惨な光景が目に見え込み、また、被災された方々のご苦勞を察すると、胸が痛みました。そして僅か4日ばかりの活動、後髪を惹か

れる想いで帰ってまいりましたが、福島にも未だに放射能の問題をはじめ深刻な問題が山積みです。しかし、過去は変えられなくても未来は変えることができます。

『困った時は、お互い様』そんな心を持ち続け前に進んで行けば、きっと明るい未来が待っていると固く信じております。阿蘇市の一日も早い復旧・復興を福島より祈っております。

災害見舞資金等の  
申請はお済ですか？

九州北部豪雨に係る災害援護資金の貸付及び災害見舞金の申請は、10月31日頃までです。

申請を希望される方(総務課が発行する罹災証明書が床上浸水以上の方で、発災日の7月12日に阿蘇市の住民基本台帳に登録のあった方)は、早めの申請をお願いします。

●問い合わせ  
健康福祉課 ☎22・3167

### 九州北部豪雨災害

#### 犠牲者合同慰霊祭

犠牲となられた方々の追悼を行なうとともに、鎮魂への思いを新たなまちづくりの出発点として再認識し、早期復興に向け市民を挙げての取り組みを誓うことを目的に左記のとおり開催しますので、市民の皆さまのご臨席をお願いいたします。

●とき 10月20日(日)

午前9時開場、10時開式

●ところ 一の宮中学校体育館

●問い合わせ 総務課

☎22・3111